



にしもり のぶお 議員
西森 信夫

新しい議員仲間が揃い力を合わせていいまちづくりを

問

昨年の被災箇所の復旧と支援策は

町長

今年度中の早いうちに完了

計画に基づき復旧

問 町全体の被災箇所総数と復旧済、未実施箇所は。

町長 昨年度はゲリラ豪雨により6月、7月、8月に被害があった。

被害箇所延べ総数として、道路84か所、河川36か所となり実践會長などからの情報提供を含めると約200か所の被災状況である。現段階での復旧済み箇所として、農地災害復旧助成事業では40戸、表土など流出の復旧44・34haおよび法面崩壊54か所については完了、町管理道路、河

川では約140か所程度が完了した。

未実施箇所では、農地災害復旧助成事業22戸につき表土など流出の復旧17・82haおよび法面崩壊56か所につき令和5年実施予定である。町管理の道路6か所、河川1か所が未実施であり、今年度予算での執行として河川3か所、計10か所と実践會長からの情報提供分40か所程度が残っている。

問 復旧費用（国費、道費、町費）の割合と補助金などの支援策の可能性は。

町長 「協成川」「豊坂川」「西訓川」は農業施設災害復旧事業で実施し、国費96・1%、町費3・9%であり、設計委託については国、町ともに50%となっている。防災減災対策事業の「新井山川」については国費55%、道費18%、町費27%で実施している。小破工事については単独債10割充当となっている。農地災害復旧助成事業では、繰り越し分を町補助金とJA支援金で支援している。



災害の爪痕が残る被災地

問

本町のスキー場整備は

教育長

現在方式での運用を基本に運行

現行運行に努めたい

問 本町のスキー場は設置から35年経過し更新時期となるが、チェアリフト導入の考えは。

教育長 チェアリフト導入には多額の事業費が必要であり、利用者の人数、形態、敷地面積、グレンデの全長や傾斜など現在の環境と条件をみても、現在の方式であるロープリフト運用が最適と考える。

問 現状の斜面西側ブッシュの一部利用は。

教育長 安全管理上死角となることから、監視人の増員や照明設備への投資が必要となる。

またグレンデ西側森林地帯は「鳥獣保護区」

10Xモ

ロープリフトとチェアリフトの違いは

立ったまま一本のワイヤーロープにかまって、滑りながら上げられていくのがロープリフト（ロープトウ）、椅子に座って運んであげてくれるのがチェアリフトで一人、二人、四人用と各種ある。



西森議員の一般質問を視聴できます